

日本大学工科校友会

桜

工



混声合唱団の公演から

1966 45



若きエンジニア

しのかんのひい ずるくにこそわがそこくそ
 のなをばにいて そびゆわがほこつ のび
 ゆくにほんのちからはここにちき
 ひらきゆくものわがきエンジニア

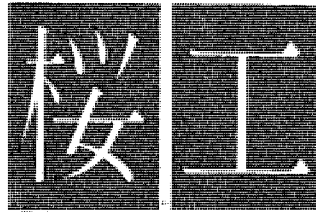
堀内敬三 作詞作曲

- 1 昭渙の日出づる国こそわが祖国
其の名をば担いて聳ゆわが母校
伸びゆく日本の力は茲に
地を拓き行く者若きエンジニア
- 2 青春に夢あり宇宙に真理あり
現実と理想を結ぶもの我等
科学の力と不屈の意志を
武器として進まん若きエンジニア

日本大学の目的

および使命

1. 日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしなひ、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。
2. 日本大学は、広く世界に知識をもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。



日本大学
 工科校友会誌
 1966
 Vol. 11
 No. 45

- 管理工学科の回顧と展望／村上喜一…………… 5
- 揺籃期の人びと 2
 - 人は叱るべし／語る人 大山松次郎先生… 8
- 愚直ひとすじ／岡田憲吉……………23

- 現代人の健康と保健／片平宏……………13
- 水を検査する／笹野英雄……………26

- 部室／青木顕一郎……………12
- 津田沼・昔むかし
 - ああ 開拓時代／時末光……………17
 - 狙われたノート／勝田基嗣……………18

- 部会だより（新設欄）
 - 土木・建築（29）電気（30）化学・工経（31）学内・薬学（32）生産・交通、精密、数学、物理（33）機械（34）

- 支部だより／神奈川県支部土木部会役員，神奈川県支部長に漆間君
- 会合だより／二三土会で会合，学土9回生大阪で会合
- 校友短信／岡田憲吉氏叙勲祝いの集い，電気科強歩大会ほか
- 雑記帳／篠原博，三浦智徳

- グラビア この夏の合宿から
- 表紙 日大理工混声合唱団の公演

- 会誌委員／委員長名取康（化学）／土木・下青木秀吉（副委員長），篠本勝美／建築・安藤三郎，井出好昭／機械・青木顕一郎，両角豊志／電気・篠原博（副委員長），高橋信夫／化学・大塚喜作，黒沢喜久雄／工経・三浦智徳／薬学・山内盛，戸塚淳逸



■この夏も理工学部は運動部、文化部などの各研究会やクラブでは、例年のように夏季合宿に出かけた。英語のESSは今年も軽井沢の日大寮へ、合唱は今年もまた榛名湖へ出かけ、茶道は北アルプス白馬山麓で、尺八・華曲は信州飯山へ。夏季合宿はやっぱり涼しいところをと、美術は茅野、詩吟は諏訪、落語は白樺湖、将棋はア津と信州の高原が人気があったようだ。囲碁は千葉の保田で海水浴も兼ね、ユースホステルは湯ヶ島で伊豆の風を吸い、唐手は播れ☆

調絃ってえことは大へんなもんだ



軟式テニス、
スマートにいこう



☆る戸倉温泉で鍛練した。

■この他、文学、写真、マンドリン、軽音楽、MCE、聖書などのクラブや研究会も、学割を活用してあっちこっちへ出かけたもよう。運動部各部では、文化部が同好の学生が集って、レクリエーションも兼ねての合宿と違い、気合いの入った文字どおりの鍛練だった。

混声合唱団榛名湖へ到着



学習は草の上



■昭和41年 9月25日印刷／30日発行
■編集兼発行人／高木政司
■発行／日本大学工科校友会（東京都千代田区神田駿河台1の8／電話東京293—3251内線206／振替・東京162710）
■印刷／本文・鉄鋼新聞社印刷部，グラビア・和喜グラビア